
A Dance Journey ダンスの旅

Butō Tokyo Barcelona 舞踏 東京バルセロナ

Marlene Jöbstl 生徒たちと一緒に

March 19th - April 11th 2026 2026年3月19日～4月11日



Introduction 導入

2026年は私にとって非常に象徴的な年です。ちょうど20年前の今日、私は吉本大輔先生、大野義人先生、そして劇団解体社と共に仕事をするために初めて日本へ渡りました。そして今年、3月11日に再び日本へ戻ります。今回は一人ではなく、生徒たちを連れて研修旅行に出かけます。春の東京で3週間、共に舞踏を学ぶのです。

生徒たちを東京の師匠たち、アンダーグラウンドで活動するアーティスト仲間、そして神秘的で矛盾に満ちた日本の文化に触れさせることを、心から楽しみにしています。帰国後、この旅の成果を皆で分かち合いたいと思っています。ヨーロッパの舞踏シーンに新たな息吹を吹き込みたいと願っています。



20年前

2006年に初めて日本に来ました。

2005年のニューヨーク舞踏フェスティバルで吉岡由美子さんのアシスタントをしていた時に、吉本大輔さんと出会いました。吉本さんと知り合えたことは大きな衝撃でした。私が「背が高い」という理由で、彼のソロ作品「エロスとタナトス」のイントロを踊ってほしいと直接誘ってくださったのです。背の高い女性とこのダンスを試してみたかったからだそうです。

それは私にとって大変光栄なことで、この短いデュエットをととても楽しみました。翌日、彼のワークショップに参加させていただき、彼の舞踏の教え方にすっかり魅了されました。彼のもとでさらに学びたいという強い思いが芽生えました。

そこで私はこう言いました。「日本に行って、あなたと一緒に仕事をしたいのですが、時間と場所はありますか？」

吉本さんは「もちろん！」と答えてくださいました。

それは2005年10月のことでした。2006年1月初旬、私は初めて日本に足を踏み入れました。空からは大雪が激しく降っていました！

東京での最初の3ヶ月間は、大輔さんのグループ「スペース・クレイドル」でパフォーマンスをしたり、大野義人先生のクラスに参加したりする機会にも恵まれました。翌年1月には劇団解体社の2つの作品に携わるため再び東京に戻り、4ヶ月間滞在しました。上杉光世さんや田中泯さんの公演を観劇したり、友人の作曲家・岳さんと共同で作品を制作したり、Plan Bで新作ソロ作品「Be」を企画・上演したりしました。滞在中は舞踏の冒険やプロジェクトに取り組み、素晴らしい友人たちにも恵まれました。

それ以来、私はパリを離れ、バルセロナ近郊の小さな町、オカタに移り住みました。この数年間で、私は舞踏へのアプローチを深め、創造的な探求の教育法を開発し、舞踏誕生日祭「金字塔」を始めました。舞踏家として成長し、私にとって最も大切なこと、つまり舞台に立ち、観客とダンスを分かち合うことができたのです。

大野義人さんが亡くなった時、深い喪失感とともに、どうしても東京に戻り、大輔さんに別れを告げなければならないという強い衝動に駆られました。

Pilgrimage 参詣

でも今回は一人で行きたくないんです。大切な舞踏の生徒たちを連れて、日本で日本の舞踏を体験してもらいたいと思っています。そして、大切な思い出を生徒たちと分かち合い、深い絆を築いてきた尊敬する先生方やアーティスト、友人たちにも会いたいんです。

このダンスジャーニーは巡礼であり、学び、成長し、分かち合うためのものです。完全に独立しており、資金援助もスポンサーありません。

私の使命は、ヨーロッパと日本の舞踏界の架け橋となり、「翻訳の過程で失われるもの」をできる限り避けることです。私の役割は、両方向への通路、現実、人間性、そして芸術的才能を開放する入り口となることです！

皆様のご許可をいただき、これから人生を変える旅に出ることを心待ちにしている生徒たちをご紹介します。

愛を込めて
Marlène Jöbstl

親愛なる舞踏の生徒諸君

これは学生の「グループ」ではなく、私が舞踏教師として活動する中で出会った個人の方々です。2009年にパリでプロの舞踏教師として活動を始めた頃から、主にヨーロッパの様々な場所で、2025年まで出会った人々です。

この特別なダンス学習の旅に加わっていただくメンバーは、私が一人ひとりを選んだからこそです。ダンスのレベルや身体能力で選んだわけではありません。

大切なのは信頼です。私たちは、人間としてもダンサーとしても、お互いを心から信頼しています。私たちは舞踏への深い情熱を共有し、共に成長し学び、そして優しさを大切にしています。

一人ひとりを個性を持った存在として見ていただければ幸いです。

私たちはグループではありません。この旅を通して一つになる可能性はありますが、それがこのプロジェクトの目的ではありません。

全くの初心者もいれば、長い間ダンスをしていなかった人も、怪我から回復した人も、夫や子供に許可を得てこの3週間旅行に出かけた母親もいれば、特別休暇を取った教師もいる。

最年少は27歳、最年長は61歳です。東京に来たことがある人もいますが、ほとんどは初めてで、中には英語が話せない人もいます。

これは私の舞踏の生徒用の花束、野生の花束です。

Isabelle Cossin

Isabelle Clément

Juan Gutierrez

Lola Roig

Temenuga Manolova

Sandra De Miguel de Sanz

Clara Más

Marie-Louise Edelholt

MaySun Fung

Temenuga Manolova
from Sofia, Bulgaria



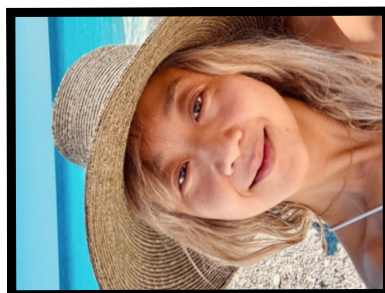
Isabelle Cossin
from Paris, France



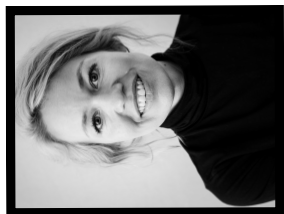
Juan Gutierrez from
Barcelona, Spain



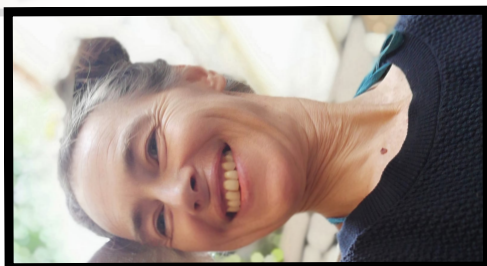
Maysun Fung
from Hong Kong



Marie-Louise Edelholt
from Copenhagen,
Denmark



Marlene Jöbstl
from Vienna,
Austria and
Paris, France



Sandra de Miguel de Sanz
from Madrid, Spain



Lola Roig from
Barcelona, Spain



Isabelle Clément
from Strasbourg, France



Clara Mas
from Valencia, Spain





jobstlmarlenebuto.com